

平成27年度 芦原小学校学校評価書

27年度の集約								
項目	具体的取組		評価者	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力①	授業研究を積極的に行い、わかる授業・できる授業の充実に努める。	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている。	教職員	90	87	「伝え合い 学び合う」の研究テーマのもと、全教職員が教材研究や授業研究を行うことができ、教職員・児童共に目標指数に近い数値が得られたが、前年度より下がっているのが気がかりである。支援が必要な子には、きめ細かい指導を行うことができた。学年便り等に学習状況を紹介したので、保護者の理解も得られた。	きめ細かい指導の手立てが学力向上につながるように、教材研究や授業研究も引き続き行う。また、教職員、特に支援員との打ち合わせが不十分なことがあったので、事前に確認するようにする。	教師の本務は学習指導だと思うので、日々、継続的な研究をお願いしたい。教師の授業に対する努力も大変かと思うが、今後もきめ細かい指導をお願いしたい。児童、保護者とも目標指数を上回る結果となっているのが素晴らしい。また、今後ICT教育を充実させ、学力アップに寄与できる体制づくりや研究、学校・児童・保護者の連携を密にする必要があると考える。
		授業が分かりやすくて楽しいと思う。	児童	80	84			
		日々の学習内容を理解していると思う。	保護者	80	86			
確かな学力②	漢字マスターテストや計算スキルテストを実施する。	漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。	教職員	90	100	マスターテストは数年間、継続して行っているので、教職員、児童共に漢字の書き取りや計算に力を入れている。しかし、保護者には漢字や計算の力が身に付いていると十分には実感してもらえない。	マスターテストは来年度も実施。再テストをして定着を図るが、個人の目標の得点を設定して4回以内で合格するように配慮する。目標設定については、学年で十分話し合っておき、個人に配慮した再テストを実施する。マスターテスト表と生活チェック表とを抱き合わせにして、保護者に結果が伝わるようにする。	漢字、計算は基本だと思うので、繰り返し取り組んでほしい。より効果を上げるためには、児童の自主的な取り組みと保護者の家庭での学習環境づくりが必要だと考える。小学校の段階から英語を身につけさせようとする動きが加速している。グローバルな人材を育成する教育が必要だと考える。
		家で漢字や計算の勉強に取り組んでいる。	児童	80	81			
		漢字や計算の力が身に付いていると思う。	保護者	80	78			
	読書活動を推進する。	読書活動の習慣化を図っている。	教職員	90	86	「家庭読書の日」を設けたので、家庭で読書をするきっかけとなり、教職員は読書奨励を図ることができた。図書室の利用の仕方が徹底されていない。児童は朝読書など学校では読書をよくしているが、家庭ではあまり読書をしていない。また、保護者の評価も低い結果となった。	「家庭読書の日」は来年度も実施。家庭でも読書できるように週末に必ず本を借りるようにする。読書カードを見直して、記入しやすいようにする。図書室の貸し出しをスムーズにするためにコンピュータを導入できるよう検討する。	家庭での読書の定着化は、なかなか難しいと思う。根気強く、児童の指導と保護者の理解を得られる工夫をお願いしたい。保護者が日頃から読書しないと、児童も家庭で読書しないと思う。特に低学年の時は、保護者が読んであげることが大切だと言われているので、家庭との連携が重要である。
		学校や家庭でよく本を読んでいる。	児童	80	63			
		学校や家庭でよく本を読んでいると思う。	保護者	80	39			
健康で安全な態度①	生活スローガン「あいさお」を実践できる児童の育成に努める。	清掃の指導・監督を徹底する。	教職員	90	100	無言清掃ができる児童が増えてきているが、全員できるようにさせたい。協力して時間いっぱい清掃している児童がほとんどであるが、児童評価結果が目標指数に達していない。清掃前の熟想、がんばり賞での意欲付けや縦割りで上級生が下級生に教えることなどで全校生が清掃を頑張っている。しかし、清掃の仕方が身に付いておらず集中できていない児童もいる。	今後もさらに、丁寧な清掃指導を続け勤労意欲、愛校心をもって無言清掃ができる児童を育てていきたい。月目標の意識付けと生活チェック表での自己評価をもとに児童の清掃活動への意欲を継続させていく。特に、毎日の清掃反省カード評価(自己評価)を明日の清掃に生かせるよう声かけをしていく。清掃の仕方が身に付いていない児童には、清掃時はもちろん学級での指導も丁寧に行っていく。	教師が指導・監督だけでなく、一緒に雑巾がけなどをする事で、児童もやろうとする気持ちをもつのではないかと。学校での清掃だけでなく、地区の資源回収や公園の草むしりなどに積極的に参加している児童が多いように思われる。
		協力して、時間いっぱい掃除をすることができる。	児童	90	85			
		清掃活動に真面目に取り組んでいると思う。	保護者	80	85			
健康で安全な態度②	業間の体育的活動を充実するなど、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。	業間の体育的活動や運動遊びの充実に努めている。	教職員	90	93	業間マラソンに熱心に取り組み、児童評価も高い。昼休みにも、サッカーやバスケットボール、ドッジボール、一輪車、大縄跳び、雲梯、肋木などで友達と楽しく運動する姿が多く見られる。	校内放送で昼休みに外遊びや縄跳びなどを奨励しているので、継続していく。学級で、ボールや長縄など運動用具を備え、運動遊び奨励を継続していく。	学校での体育やスポーツ少年団での活動を通じて、体力に積極的に取り組んでいる児童が多いと思う。家ではゲームなどで過ごすことが多いと思われるので、運動をたくさんさせてほしいと思う。
		校内マラソン大会で記録がよくなるように、業間マラソンを熱心に取り組んでいる。	児童	90	91			
		体力づくりに意欲的に取り組んでいる。	保護者	80	78			
規範意識①	集団で生活するための基本的なきまりやマナーを身につける指導実践に努める。	元気ある挨拶や大きな返事をする指導をしている。	教職員	90	100	今年度は、集団登校班ごとにあいさつ運動を行い、すべての児童が朝玄関前に立つという取り組みを行った。また、高学年を中心に朝と帰りに職員室に立ち寄ってあいさつをする習慣が、他学年に良い影響を与え、学校中があいさつであふれるようになってきた。あいさつに関しては、期待値に達していると考えられる。しかし、返事に関しては、何度もやり直しをさせて徹底できるようにしてきたつもりだが、まだまだ十分とはいえない。また、言葉遣いに関しては他人を傷つける場面がしばしば見られた。	集団登校班単位に、学級単位でのあいさつ運動を実施し、児童だけでなく教員もあいさつを意識した指導を常に行う必要がある。いつでも、どこでも、だれにでも気持ちの良いあいさつができなければ、本当に身につけているとはいえない。返事や言葉遣いに関しても、学級担任が常に指導し続けていかねばならない。道徳や、学級活動の時間に、集団で生活するために必要な基本的なきまりやマナーを考えさせる活動を取り入れていく必要がある。	保護者の評価が年々向上してきていると思われる。引き続き指導をお願いしたい。全体的に元気な挨拶をする児童が多いが、地域での挨拶は、あまりできていないように感じる。まずは大人の声かけが必要であり、地区懇談会などの機会に保護者に呼びかけていく。
		進んで挨拶したり、大きな声で返事をしている。	児童	80	90			
		基本的なマナーが身についていると思う。(先生や友だち、地域の人への挨拶)	保護者	80	89			
規範意識②	当たり前のことが、当たり前に見える児童の育成に努める。	学校で決められた約束事の指導に取り組んでいる	教職員	90	100	毎月の自己チェック表に「廊下を走らない」という項目を、今年から入れたことで意識付けがなされ、教員も学級で指導する機会が増えた。そのため、例年よりも廊下を走る児童が減ってきたようだ。安全面での指導も含め、今後も継続して指導する必要がある。今年度は、授業中の学習態度など学習規律に対する意識の低下がよくに見られた。授業中の私語禁止、立ち歩かない、宿題忘れ、忘れ物なしなどである。後期に、学年集会を行い、意識付けを行った成果が少しずつ現れてきた。やはり教員が、絶えず指導し続けることが必要である。	毎月の自己チェック表に、来年度も強化項目として「廊下を走らない」「気持ちの良いあいさつ」を入れ、継続して指導していく。できるようになったことは、積極的に賞賛を与えることは忘れない。また、学習に関する項目、例えば「むだなおしゃべりはしない」や「忘れ物をしない」「5回以上発言する」などを入れ、全校一斉に取り組んでいく。	当たり前のことをなかなか実行できない大人が多い中で、児童に多くのことを期待するのはどうかと思う。ただ、約束事を守ることで心も落ち着き、学習にも集中できると思うので、引き続き努力してもらいたい。
		学校で決められている約束事を守っている	児童	80	91			

思いやりの心①	異なる意見や考え方を尊重し、個を大切にした指導の充実に努める。	話し合い活動や発表活動を実施している。	教職員	80	71	教職員は、話し合い活動など不十分と感じているので、向上策を考える。縦割り班の活動では高学年は低学年の世話をよくしており、低学年も素直に楽しめている。	教職員は、授業に話し合いや発表ができるような学習活動をしていく。児童にも、「自分の思いを伝え、他の思いを受け止める」ことが思いやりに繋がることを体験を通して理解させ、学習活動にも取り入れていく。	家庭でも子どもと話し合う場を多く設けて、子どもが何を考えているのか真剣に聞くべきある。コミュニケーション能力の育成を図り、他の思いを受けとめる広い心をもってほしいと願う。思いやりの心をテーマに、意見交換や課題検討など児童の主体的な活動の場を設けてはどうか。
		様々な学習活動や生活の場面で、自分の思いを伝え、他の思いを受けとめることができる。	児童	70	74			
		一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指導を行っている。	保護者	70	85			
思いやりの心②	道徳の時間をはじめとし、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	道徳の時間をはじめ、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てている。	教職員	80	92	教職員、児童、保護者共に目標指数に達することができた。ふれあい集会で人権教育担当者の「怒りのコントロール」という話を聞いて、児童なりに考えることができた。前年度に引き続き、見守り隊の人もお招きして感謝の気持ちを伝えることができた。縦割り班の遊びの企画は思いやりの心を育成するのに効果的であった。	来年度も体験を通して思いやりや感謝の気持ちを伝えるように計画する。遊びの企画も何人かの教員でチームを作って調整するとよい。道徳教育用教材「私たちの道徳」はチェックする項目を学年で選んで、積極的に活用し、学期に一度は家庭との連携が取れるようにする。心のノートも使って、思いやりや感謝の気持ちを育成していく。	「怒りのコントロール」の話を聞いた。また、このような話を通じて児童に思いやりの気持ちが芽生えたと良いと思う。
		思いやりや感謝の心が育っている。	児童	80	87			
		思いやりや感謝の心が育っている。	保護者	80	87			
	いじめの防止等の対策に取り組み、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりに努める。	いじめに対し、未然防止、早期対応に努めている。	教職員	80	100	教育相談のアンケートや「いじめさらい宣言」を実施してよかった。また、定期的に教育相談やいじめ対策委員会を開いたので、教職員は100%、児童も目標指数に達した。しかし、保護者に「いじめ防止基本方針」が理解されていないので、低い結果となった。	アンケート・教育相談・アンテナ会議・いじめ対策委員会を引き続き実施し、いじめの未然防止に努める。保護者に「いじめ防止基本方針」が十分理解されていないので、粘り強く学校便り・学年便り・ホームページ・広報紙などを利用して、知らせるとよい。内容を分かりやすく伝えるためのキャッチコピーも考えてみる。インターネットのよりよい使い方を伝啓発して、家庭でのルール作りの手がかかりとなるとようにする。	いじめは、学校だけでなく家庭間の問題であることを保護者が肝に銘ずるべきである。児童、保護者ともできる限り100%に近づくよう指導をお願いしたい。
		いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいる。	児童	80	84			
		いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいると思う。	保護者	80	81			
		「いじめ防止基本方針」を理解している。	保護者	70	46			
2学期制の施行	授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。	楽しくわかりやすい授業を行うとともに、時間をかけるよう心がけている。	教職員	80	100	教職員、児童、保護者ともに目標指数を上回る結果となっている。長期の休み直前まで授業を行えている点が、以前よりも授業の余裕を生んでいることが現れていると思われる。しかし、昨年度と比べると、授業改善についての保護者からの評価が低下している。このことについては、必ずしも全ての児童が落ち着いた学習環境の中で集中して学習に取り組めていないことが、一つの要因として考えられる。授業時数の確保だけでなく、学習環境を整えていくことも重視していかなければならない。	2学期制のメリットである授業時数の余裕を生かして、児童一人ひとりへの丁寧な指導を行っていくことと合わせて、落ち着いた学習環境を整えるために学習規律を徹底し、学級経営や指導体制を工夫していく。	6月の授業参観に毎年参加しているが、児童が楽しそうに授業を受けている光景を目にする。今後も2学期制のメリットを活かして、丁寧な指導をお願いする。
		先生は、楽しく分かりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。	児童	80	92			
		一人ひとりを大切にしたり分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいると思うと思う。	保護者	80	85			
	児童生徒とふれあう時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	日常の対話により児童の実態を把握するように努め、きめ細かな対応を行っている。	教職員	80	94	児童の立場からは、教師とのふれあいの時間が十分増えていない結果となっている。教師はできるだけ児童とふれあいきめ細かな対応に努めているが、気がかりな児童や指導を要する児童とのかわりが増え、目立たない児童への声かけや対話が相対的に少なくなってしまう傾向がある。意図的に全ての児童とふれあう時間をつくり、教師と児童との関わりを深めていくことが重要である。	児童との会話や遊び、日記指導を通して児童との日常的なコミュニケーションに努めるとともに、アンケートなどによって把握した個々の児童の悩みや不安を解消するために教育相談を充実させていく。また、教師が児童と向き合う時間の余裕をつくるために業務改善に取り組んでいく。	児童全員に目を届かせることはなかなか難しいと思うが、絶えず気を配ってほしい。日常の何気ない会話やふれあいが、児童はうれしいと思う。なかなか心を開かない児童もいるが、少しずつ心を開くように教師と保護者が声をかけるべきである。
		先生と、学習や生活について話をする時間がある。	児童	80	78			
	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	教職員	80	86	事前指導や課題の与え方の工夫により、長期休業中の計画的な学習への取り組みはおおむねできている。長期休業中に学習会を行い、課題の取り組みが滞らないようにしている手立ても効果を上げていると思われる。長期休業によって学習への意欲が低下することがないように指導計画を工夫し、学習の継続性の維持を図っていくことが大切である。	学習への意欲が持続するように長期休業前後の学習に継続性をもたせたり、休業後に休業中の学習を活かした学習を展開したりする工夫を行っていく。また、長期休業中は学期の途中であることを踏まえて課題が出されていることを児童や保護者へ啓発していく。	午前中は学習の時間、午後からは自由時間という形で生活にメリハリをつけて夏休みを過ごすよう、保護者が注意すべきであると思う。
		夏休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	児童	80	86			
		夏休みの期間中は計画的に課題に取り組んでいる。	保護者	80	79			
	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	教職員	80	100	保護者会では通知表の代わりになる資料を準備し、児童の生活や学習の様子が分かるように工夫している。また、振り返りカードや製作物なども児童や保護者に目にするようにして、具体的に児童の学校生活の様子が伝わるようにしていることが、学校生活への理解を進めていると思われる。今後、児童の日常的な様子を保護者へ知らせしていく手立ても充実していかなければならない。	保護者会の資料を引き続き工夫していくとともに、学年・学級便りの内容を充実させたり、ホームページの更新を増やしたりして、児童の日常的な様子を保護者へ丁寧に伝えていく。	個人面談などで子どもの日頃の生活を教師から聞くことができるので非常にありがたい。資料については、引き続き工夫をしてほしい。
		先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	児童	80	87			
		個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	88			
開かれた学校	教育活動を積極的に公開する。	計画的に学校を公開する。	教職員	80	100	年度当初に年間行事予定を知らせ、保護者が来校する予定の見通しを持ちやすしたり、学年便りなどでも学校を開放する教育活動を連絡しているので、比較的多くの保護者が都合をつけて来校してくださっている。また、児童の活動の様子が具体的にわかるように学習活動を工夫したり、保護者が子どもと一緒に活動したりする場面を取り入れたりしているので、来校を楽しみにしてくださっている保護者や祖父母も少なくない。	より多くの保護者に学校開放に来校していただけるように、日時や内容の連絡を早めに行うことや全ての児童に活躍の場があるように活動を工夫することを継続していく。また、学校開放の在り方について改善していくために保護者に来校の感想を伺うことも検討していく。	公開することで、保護者の理解も得られると思うので、今後も続けてほしい。教育活動、社会活動、家庭活動を双方向で意見交換できると良い。また、保護者や祖父母を招いて、社会体験談を紹介してもらうような取り組みも検討してみてもどうか。また、地域のことを知る活動をとおして、地域とのつながりを深めながら、情報を発信することができると思う。
		学校公開に多くの保護者が参加することができる。	保護者	60	66			
		学校での子どもの様子や活動ぶりを知ることができる。	保護者	70	72			
	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	教職員	80	94	学年・学級便りや保健便りを定期的に発行するとともに、ホームページの更新を随時行い、学校からの情報発信に努めてきた。また、天候悪化等に関わる連絡も緊急メールを利用して迅速に連絡することができた。保護者に指導のねらいや児童の姿が具体的に伝わり、学校に興味をもって読んでもらえるような内容や情報提供の時期を工夫していくことも大事である。	保護者への連絡・依頼事項だけでなく、指導のねらいや児童の様子が具体的に伝わるように学年・学級便りなどの内容を改善していく。また、ホームページの更新の頻度を増やし、日常的な学校生活の様子を伝えていく。	普段のお便りで、学校の様子を知ることができる。特に学級だよりは定期的ではなく、回数を多くすることで見える化して、保護者の理解を深めてほしい。
		保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。	保護者	80	83			